

理事長・学長 年頭あいさつ

甲午年の新春を迎え、謹んで御祝詞を申し上げます。
さて、昨年の世相を表す漢字に「輪」が選ばれました。
東京でのオリンピック・パラリンピック開催決定、豊隆富士の世界文化遺産登録などに、日本中が「輪」になって歓喜したところ。また、台風



日本人が大切にしてきた
「輪」の精神で時代を切り拓く

理事長 坂口吉一

や集中豪雨による自然災害の多発に、支援や助け合いの「輪」が広がったことなどが、その理由として挙げられていました。
この「輪」の源は何かと問うてみますと、我々の祖先が古くから連綿と育んできました、日本人のこころにも言うべき神道になどに着くのでは

人を運営していく者の使命であると捉えております。
昨今、国内景気は回復傾向にあると言われているのですが、私立学校を取り巻く環境は、ますます厳しくなっており、財政基盤の確立に留意しつつ、教育と研究の個性化を強めていかなければなりません。

は、今秋、創立七十年という歴史の節目を迎えます。
平成二十六年も、本法人役教職員一同「輪」となっており、一歩進んでまいりますので、皆様のご支援ご鞭撻のほど心からお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

新玉の年を迎えて、一年の計を改めて確認したいと思っております。
大学に求められる最も大きな改革は、「教える」から「学ぶ」へ、教授者中心から学習者中心へと移移しています。この機能変化に対応するには、大学全体が計画的かつ戦略的

な移行を促し、基礎力を涵養する初年度教育や教養教育を充実し、「國學院科目」や「日本語基礎」を強化し、「國學院スタンダード」としてすべての学習の基盤とします。
グローバル化する社会に貢献できる人材の育成とは、自国の文化理解

に、伝統文化や学術資産の継承拠点であるという使命が期待されています。予測不可能な近未来に、日本文化の継承と新たな価値の創造、各人が持つ生まれた個性を輝かせることと同時に地域の共生と共存を図り、その地域性はひいては国際社会への調



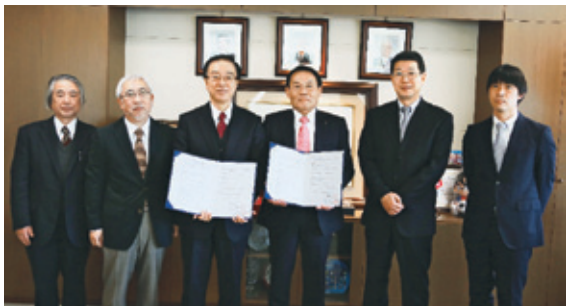
すぐれた人材の育成が
國學院ブランドを高める

学長 赤井益久

に動く必要があります。創立百三十周年を期に策定されました「21世紀研究教育計画」(第三次)が定める将来像を具現化すべく諸政策を進めて行く必要があります。
個性ある教育と研究の具現化には、国学院大学独自の教育と研究に

に立脚したものであり、それこそ文化間の矛盾を調和し協調する二十一世紀に活躍できる人材になることでしょう。そうした人材は日本の社会の中核となって活躍しうる資質をも併せ有しています。
また、大学は地域社会の中心である役割が求められています。同時

和を促すものでなければならぬという本学の使命は、よりいっそう日本社会で果たす役割が期待されます。そうした人材を多く輩出して参りたいと思っております。すぐれた人材が、国学院のブランドを高め、輝きを増してくれるに相違ありません。



協定書を手にする赤井学長(左から3人目)と大東チェアマン(同4人目)ら

本学と公益社団法人日本プロサッカーリーグ(以下Jリーグ、チェアマン:大東和義)は、将来、教育者・スポーツ指導者として有用な人材を育成するための「セカンドキャリア特別選考入学試験」を新たに設け、Jクラブとのプロサッカー契約経験者を一定の条件のもとで人間開発学部健康体育学科に受け入れることで合意し、昨年

選手引退後のキャリア支援で
Jリーグと協定

12月25日に協定を締結した。
同制度では、サッカー選手のセカンドキャリアとして、将来、中学・高等学校の保健体育教師、小学校教諭などを目指す者に、本学が奨学金を支給し経済的支援を行う。また学修とともに同学部の地域貢献活動に参加することが条件となる。健康やスポーツ分野のリーダーとして、サッカー選手としての実績や経験を、地域社会に還元できる人材を本学が育成し輩出することを目的としている。

Jリーグ本部で行われた調印式には、本学からは赤井学長、新富康史人間開発学部長・教授、秦信行理事・入学部長・経済学部教授らが、Jリーグからは大東チェアマン、大河正明理事・管理統括本部長らが出席。赤井学長と大東チェアマンがそれぞれ協定書に署名捺印をした後、双方の人材育成の理念などの意見交換を行った。
同制度は、平成26年度入試から導入。入試要項は1月中旬までにJリーグを通じて各クラブに配付し、Jリーグが推薦者決定する。2月下旬に本学が作文、面接による試験を実施し、可否を決める。募集人数は最大3人。

歳旦祭を斎行

歳旦祭(斎主・加藤元茂法人事務局長)が、1月1日午前11時から渋谷キャンパス神殿で執り行われ、坂口理事長、赤井学長はじめ本法人傘下諸学校の役教職員・学生などが参列した。
引き続き、第90回箱根駅伝で使用する襷の授与式が行われた。



みはるかすもの

新年を迎え、神社へ初詣に出かけた方は少なくないだろう。願いが成就するよう、この一年も精進していきたい▼近年趣味を楽しむ若い女性たちが「山ガール」や「城ガール」、「宙(そら)ガール」などと呼ばれ注目されているが、先日各地の神社に詣でる「神社ガール」が紙上で紹介された(読売新聞昨年12月30日朝刊)。パワースポットブームや昨年の還暦なども併せ、若年者が神社への参拝を身近にさせることは好感がもてる▼折りの形は世界中の宗教宗派によって、千差万別。どのような信仰でも、敬虔な気持ちで祈る姿は純粋で、神々しくもある▼生活も文化であり、土地土地の違いが興味深い。先月本紙別冊「K・D・N A」の「正月」特集では、雑煮の具材や味付けが地域によって相違があることを紙面と映像で紹介した。各々が親しんできた雑煮があるからこそ、自ずと地方のものにも興味や湧く▼信仰も同様で、日本の土地に根差した神道もあれば、仏教やキリスト教、イスラム教など環境や文化に適した宗教も存在する。己の立ち位置を自覚してはじめて、隣人との違いに気付く、互いが尊重し得る。世界共存の標であり、本学が建学以来掲げるグローバル・リレーションもここにあり▼新春の初詣に祈りの気持ちを抱き、無垢な思いで日頃お世話になっている産土神に敬意を払うとともに、世界に思いを馳せたい。

予約 事前申込不要
時間 14:20～14:50、15:00～15:30、15:40～16:10
予約 事前申込制(予約ダイヤル**03-5766-8100**)
 予約受付は平日10:00～18:00 最終日2/14(金)17:00まで

本学の就職率が 伸び率全国1位に

1月20日、朝日新聞出版から新書「沈む大学 伸びる大学—就職率上昇ベスト100」(木村誠 著)が発売され、就職伸び率全国1位の大学として本学が紹介された。

本学キャリアサポート課では、インターネット普及に伴う就職活動の変化、学生気質の変化など時代の流れに柔軟に対応し、多様な取り組みを行ってきたことが今回の結果につながったと分析している。

現在の就職活動においては就職情報サイトから求人情報を収集し希望の企業へエントリーする流れが一般的であり、以前に比べると情報収集の面で利便性は増している。その反面、「膨大な就職情報の中から自分に有益となる情報をいかにして取捨選択するかが、就職活動成功の鍵である」と、原田佳昌キャリアサポート課長は語る。



他大学との合同セミナーでは企業の採用担当者が指導にあたる

キャリアサポート課では、就職活動が始まる3年生だけでなく、就職活動前の2年生にもキャリアガイダンスを実施。就職活動の流れや、情報収集の仕方などを解説している。

3年生に対しては、就職力強化セミナーや学科別ガイダンスなどを実施し、就活生個々のニーズにあった指導を行っている。特に昨年度から立ち上げた他大学との合同セミナーでは、第1弾として大東文化大学との合同模擬面接を実施。1月11日には第2弾となる神奈川大学と駒沢大学との合同セミナーを実施する。「同じ風土の中で育った学生同士では見えてこない部分も多い。他大学の学生と交流することで、就職活動本番で萎縮してしまうことのないよう免疫をつけることが本来の目的」と原田氏。

今後、同課では、インターンシップ受け入れ企業のさらなる獲得、現在個々に独立しているガイダンスの体系化、卒業生と連携したセミナーを増やすことなどを目標に改革を進めていく予定だ。

国家総合職として中央官庁で働くためには、①一次試験(教養・専門択一試験)、②二次試験(専門記述論文十

今年度の就職活動で内定を獲得した4年生に、自身の就職活動について「活動体験談」を寄せていただいた。今号では企業、公務員それぞれの分野で各1人登場し、就職活動で

私の就活体験談①

の苦労や、ポイントなどを紹介する。就職活動がいよいよ本番となった3年生は、ぜひ参考にさせていただきたい。
(総合企画部広報課)

私がマスコミ業界に憧れを抱き始めたのは、高校時代のことでした。小学生的頃から野球をしており、その後地元静岡高校の野球部員として、甲子園を目指して日々練習に励みました。県内でも高校野球の名門として有名な母校野球部には、大会が近づくとマスコミ関係者が毎日のように取材に訪れていました。その光景を目の当たりにして「こういう仕事も楽しそうだな」と興味が湧き、生涯野球に携わっていたという強い思いがあった私にとって、野球選手やスポーツトレーナー以外に、新たな発見をしました。そして、大学に入学するときには「スポーツ取材記者になって、母校の野球部取材したい」という大きな憧れを抱きました。

マスコミ業界は、他の業界と少し異なる特殊な業界で、倍率も非常に高いと聞いていたため、大学1年生の頃から少しずつ筆記試験対策を行ったり、マスコミ業界に関する本を買って読んだり、少しでもマスコミ業界に近づきたい「母校の野球部を取材したい」という思いを重めました。

本格的に就職活動を開始したのは、3年生の1月です。マスコミ業界は、選考時期が他の業界より早いこともあって、1月からエントリーシートを作成する。また、私は選考を続けていく中でも、憧れが強かったからです。今考える

と、その気持ちが一番大切だったので、はなから頑張ります。また、私は選考を続けていく中でも、憧れが強かったからです。今考える

4月から静岡新聞社・静岡放送の取材記者として働きます。スポーツを担当するの、政治や経済、社会を担当するの、まだ配属や担当部署は分かりませんが、「口を知る」というスロ

憧れから現実へ



〈企業〉静岡新聞社・静岡放送
法律学科(法律専攻) 青木 功太

人事院面接、③官庁訪問(志望省庁推薦入試、大学をAO入試で入ったので面接)という3つの難関を突破しなければなりません。

抱えていました。しかし、自分なりの勉強方法を確立し、諦めずに最後まで必死に勉強に食らいつづけていた結果、なんとか筆記試験に合格することができました。

次に、面接対策についてです。正直に言うと、筆記試験のことで頭がいっぱいで本格的に面接の対策を始めたのは面接日の4日前でした。その短期間に、予備校でできた他大学の友人と何度も面接練習をしました。特に私は、面接が苦手な緊張して思うように話せなかったのですが、友人が面接日の当日の朝まで練習に付き合ってくれたおかげで突破することができました。

みんなに支えられ 突き進んだ2年間



〈公務員〉厚生労働省
法律学科(法律専攻) 宮崎 菜摘

て、2年生の4月から、本学の国家公務員総合職採用試験対策支援奨学金制度を利用し、公務員試験対策の予備校に通って勉強しました。私は、高校を

最後の官庁訪問は、厚生労働省志望の学生と政策について議論をしたり面接の練習をしたりして、1ヶ月間かけて対策をしました。そして、大学の先

援しています。

新卒応援ハローワークの活用を

などで公開しているの、就職先が決定していない4年生はぜひ確認を。

訃報

横山元部長逝去

国学院大学事務局元部長の横山晴夫氏が、1月4日に逝去した。84歳。葬儀・告別式は親族により執り行われた。

「あすなろ」、「田村」、「コピー」の 各奨学生決まる

平成25年度の「あすなろ奨学金」「田村祥浩君記念奨学金」、「コピー奨学金」の奨学生が決定した。「あすなろ奨学金」(元本学職員川副登美氏の篤志により昭和58年に制定、同氏逝去後、ご遺族の篤志により継続、金額30万円)には今野成人君(経営3)が、「田村祥浩君記念奨学金」(本学在学中に輪禍に遭遇した故田村祥浩君のご遺族により平成3年に制定、金額15万円)には添原彰子さん(神文1)が、「コピー奨学金」(元本学職員放生章子氏の篤志により平成5年に制定、金額30万円)には立花華織さん(日文3)と、工藤拓也君(法1)が決定した。交付式は昨年11月29日正午から渋谷キャンパス若木タワー会議室01で行われ、佐藤長門学部長から奨学生証書が手渡された。

田村祥浩君記念奨学金

添原彰子さん



あすなろ奨学金

今野成人君



コピー奨学金

立花華織さん



工藤拓也君



高校生向けコンテスト入賞者が決定

国学院大学と高校生新聞社は、第17回全国高校生創作コンテスト（国学院大学若木育成会、国学院大学院友会、国学院大学北海道短期大学部協賛、文部科学省、全国高等学校長協会、全国高等学校国語教

育研究連合会後援）ならびに、第9回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト（国学院大学若木育成会、国学院大学院友会、国学院大学北海道短期大学部協賛、文部科学省、農林水産省、全国高等学校長協

会、全国高等学校文化連盟後援）の入賞作品を決定、昨年12月8日、本学渋谷キャンパスで入賞者の授賞式がそれぞれ行われた。



盾を手にする受賞者と審査員ら

表彰式は12月8日午前11時から渋谷キャンパス若木タワー会議室02で、入賞者および関係者、審査員、村田光英高校生新聞編集局長

表彰式は12月8日午前11時から渋谷キャンパス若木タワー会議室02で、入賞者および関係者、審査員、村田光英高校生新聞編集局長

◎短編小説の部▽北村薫（作家）▽傳馬義澄（本学名誉教授）▽杉山英昭（本学大学院客員教授）◎現代詩の部▽西岡光秋（詩人）◎短歌の部▽田中章義（歌人）◎俳句の部▽佐川広治（俳人）

審査員

◎佳作▽山田葉優「ツバサとアカネ」（熊本県立第一高等学校1年）▽田邊真美子「一人称、僕。」（神奈川県立相模原中等教育学校4年）▽鈴木柚佳「Balloon flower」（千葉県立安房高等学校3年）▽濱崎春香「伝えたい思

◎佳作▽山田葉優「ツバサとアカネ」（熊本県立第一高等学校1年）▽田邊真美子「一人称、僕。」（神奈川県立相模原中等教育学校4年）▽鈴木柚佳「Balloon flower」（千葉県立安房高等学校3年）▽濱崎春香「伝えたい思

短編小説

はじめ同社社員、赤井益久本学学長、高島佳代子本学若木育成会副会長、玉井浩二国学院大学院友会事務理事などが出席し行われた。

第17回

全国高校生創作コンテスト

文部科学大臣賞に安房高等学校(千葉県)

文部科学大臣賞

千葉県立安房高等学校

短編小説の部

- 優秀賞 齋藤 弥惟「キューピッドと赤い糸」
(千葉・志学館高等部2年)
- 優秀賞 田畑 愛理「千切りキャベツ」
(群馬・太田市立商業高等学校2年)
- 優秀賞 川名 珠代「煙草と絵の具の染みついたシャツとココア」
(千葉県立安房高等学校3年)

現代詩の部

- 最優秀賞 間宮 南帆「魅かれる」
(茨城県立水海道第一高等学校2年)
- 優秀賞 阿部 咲恵「理由」
(神奈川・横浜市立戸塚高等学校3年)
- 優秀賞 山崎 華子「干乾びた家」
(神奈川県立麻生高等学校2年)

短歌の部

- 最優秀賞 伊藤 帆乃香
(神奈川・日本女子大学附属高等学校2年)
- 優秀賞 白戸 千恵子
(東京・桜蔭高等学校2年)
- 優秀賞 木村 早希
(福井県立高志高等学校3年)

俳句の部

- 最優秀賞 郷田 翔太
(福岡・西日本短期大学附属高等学校1年)
- 優秀賞 木幡 未都葵
(宮城・常盤木学園高等学校2年)
- 優秀賞 坂井 美穂
(青森県立七戸高等学校3年)

高校生向けコンテスト 合同懇親会を開催



審査員・受賞者同士が交流を深めた懇親会

全国高校生創作コンテスト、「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト表彰式終了後、会場を若木タワー有栖川宮記念ホールに移し、午後1時から合同懇親会を開催した。

同会には受賞者、審査員をはじめ受賞者の家族や引率の高校教員も参加し、料理を囲んで受賞の喜びを分かち合った。高校生活の状況や作品を作る上での苦労を話したり、また、今後の創作や調査活動などに活かそうと積極的に審査員からアドバイスを受けていた。

各部門最優秀賞受賞者と学校賞を受けた先生からは受賞の感想や作品完成までの経緯が披露され、次回もこの場所に立つと力強い決意表明もあるなど、盛況のうちに会は終了した。

現代詩

◎佳作▽石川真梨菜「少年の日の唄」（神奈川県・横浜津田高等学校2年）▽平澤歩佳「夏の旅人」（北海道森高等学校3年）▽宮崎智絵「雨上がりの紺と青」（福岡県立筑紫丘高等学校1年）

短歌

◎佳作▽新田彩乃（京都・京都光華高等学校2年）▽小宮啓佑（東京・芝浦工業大学高等学校2年）▽相馬智佳（福島県立須賀川高等学校3年）▽李祐希（兵庫・神戸朝鮮高級学校1年）

俳句

◎佳作▽尾上耕奈子（岐阜県立飛騨神岡高等学校2年）▽相馬智佳（福島県立須賀川高等学校3年）▽江口万里奈（東京・女子学院高等学校2年）▽中村香菜（福岡・西日本短期大学附属高等学校2年）▽竹内優太（東京・京華商業高等学校1年）◎入選▽井藤泰成（長崎県立諫早農業高等学校3年）

『入賞作品集』を制作中

国学院大学総合企画部広報課では、今回入賞作品を掲載した『全国高校生創作コンテスト入賞作品集』を制作、2月下旬に刊行の予定です。短編小説と現代詩の部は佳作までの作品、短歌と俳句の部については入選まで全ての作品を収録。同作品集は、当課窓口で先着順に無料配布いたします。発送をご希望の方も受け付けますので、希望部数と送付先をご連絡ください。なお、バックナンバーもご用意しています。

また、『地域の伝承文化に学ぶ』コンテスト入賞作品集についても同様に制作中で、こちらも2月下旬に刊行を予定しています。同作品集もまた、広報課で同様に無料配布いたします。なお、バックナンバーに関しては数に限りがございます。

(問い合わせ先・国学院大学総合企画部広報課 03・5466・0130)



賞状を手に記念撮影をする入賞者と審査員

優秀学校賞

- 群馬県・高崎市立高崎経済大学附属高等学校
青森県・五所川原第一高等学校
静岡県・不二聖心女子学院高等学校
岐阜県立益田清風高等学校

研究レポート部門

団体	最優秀賞	「～復活させよう郷土料理 ～We ♡ 小野町～伝えよう 郷土料理」 (福島県立小野高等学校・家庭クラブ)
	優 秀 賞	「出征馬供養塔から伝えたい思い」 (静岡県立三島北高等学校2年・郷土研究部) 「栃木県の伝統食しもつかれについて」 (栃木県立宇都宮白楊高等学校2年・しもつかれ研究班)
個人	最優秀賞	「蒲郡の行事 伝統品」 大須賀 愛 (愛知県立豊丘高等学校2年)
	優 秀 賞	「あおもりの食文化を知る」 長利 侑杜 (青森・五所川原第一高等学校3年) 「静岡宿場町丸子路 とろろ汁 丁子屋のルーツを探る」 實石 瑛莉奈 (静岡・不二聖心女子学院高等学校2年)

民話創作部門

団体	最優秀賞	「ふるさと夢十夜」 (岐阜県立益田清風高等学校3年・社会探求)
	優 秀 賞	「天王寺界限に息づく話」 (大阪・関西外語専門学校国際高等課程・「天王寺界限に息づく話」制作班) 「アイヌ神謡集ふくろうの神の自ら歌った謡 ～銀の滴降る降るまわりに～」 (北海道・遺愛女子高等学校3年・高校3年一般コース地理メンバー)
個人	最優秀賞	「ダルマさんが転んだ」 櫻井 祐佳 (群馬・高崎市立高崎経済大学附属高等学校2年)
	優 秀 賞	「蚊のはなし」 大原 加奈 (神奈川・湘南白百合学園高等学校2年) 「霊山たけやま」 生巢 愛莉 (群馬・高崎市立高崎経済大学附属高等学校3年)

残したい方言—信州のことばアラカルト—

出野憲司(昭62卒・95期文、伊那西高等学校校長) 著

著者の出野憲司氏は院友で、伊那西高等学校校長。平成22年7月29日から平成25年4月7日まで、信濃毎日新聞朝刊「ひろば」に隔週で連載されたコラムをまとめたもので、現在も連載は続いている。

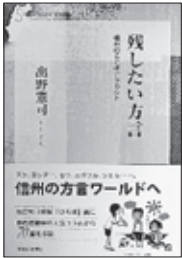
赴任直後に高校生から聞いた「先生 飲マッシ」エピソードがこの書のはじまりにある。「～マッシ」は伝統方言の持つ優しさが伝わってくる敬語表現である。勤務先の高校が東西方言の境界地帯に位置するところから、地の利をいかした著者の研究の強みが十分に発揮されている。同じ高校に通う生徒の中でも、辰野町出身の生徒は東日本方言の「人がイル」「誰も行かネー」と言い、中川村出身の生徒は西日本方言の「人がオル」「誰も行カン」と言うというから、居ながらにして日本の東西方言の対立を聞くことができる地域であることがわかる。

今ではもう「飲マッシ」を使う生徒はいない。伝統方言の衰退がここでも起こっている。共通語化が進む中、身近な事象を取り上げ、失われていく伝統方言に対する温かい目と冷静な研究成果を背景にわかりやすい口調で説かれている。「カミユキ」と言う俚言の読者へ使用実態の問いかけがあったり、読者からの質問に対する回答や解釈があったりと、著者と読者とのキャッチボールもこの書を楽しいものになっている。

著者は国学院大学文学部卒業後も信州方言の研究を続けていて、オーソドックスな方言体系記述と長野県各地方言の緻密な調査研究に裏付けされた見識の高さが伝わってくる。このコラムは時には50通からの投書が寄せられるほど読者からの反響が大きく、長野県民の信州方言に対する愛情の深さがうかがえる。

研究成果を社会に還元する方言研究のあり方を示す一書である。(信濃毎日新聞・1200円＋税)

本学教授 久野マリ子



新刊紹介

日本の歳時伝承

小川直之 (本学教授) 著

本書は、月刊誌『NHK俳句』(NHK出版)に3年間にわたって連載された「歳時伝承の世界」などをもとにして36項を選んでまとめられたものであり、日本の歳時習俗、年中行事の歴史と民俗についての貴重な情報が満載である。本書の特徴は大きく次の3点にあるといつてよい。(1)「日本には多種で多様な、しかも地域色豊かな歳時文化＝歳事が、まだ伝えられている」とあるように、著者自身の豊富なフィールドワークに裏付けられた日本各地の民俗伝承の地域差への注目、(2)「諸国風俗問状答」や「家例年中行事」等々、近世後期の典拠史料が紹介されその時期から現代までつながる年中行事の形成など民俗伝承の時間差への注目、(3)折口信夫の「民間伝承学」に学びながらの歳時伝承の一年両分性など構造的な特質についての解説、にある。また御霊の飯や歳神の棚などの写真も貴重である。著者は近年の「しきたり」や「文化」を解説する書籍の中には典拠の明確でないままの「うわべ本」がもてはやされる傾向があることを嘆いている。そして「日本の伝承文化としての歳事一年中行事を扱った書冊をまとめたのは、それぞれの行事の歴史や意味内容について、じっくり読め、ここを起点に日本の文化や歴史について思索を深められるものを出しておきたかった」という。本書は十分にその趣旨にかなった内容となっている。(アーツアンドクラフツ・2400円＋税)

国立歴史民俗博物館教授 関沢まゆみ



第9回

「地域の伝統文化に学ぶ」コンテスト

優秀学校賞に高崎経済大学附属高等学校など4校



「地域の伝承文化に学ぶ」コンテストは、高等学校の「総合的な学習の時間」などを利用して地域研究を発表する機会を作るとともに、

ける最優秀賞、優秀賞、佳作、入選がそれぞれ決定され、優秀学校賞に群馬・高崎市立高崎経済大学附属高等学校、青森・五所川原第一高等学校、静岡・不二聖心女子学院高等学校、岐阜県立益田清風高等学校の4校が選ばれた。なお、最も優秀な作品に授与される折口信夫賞について、今回は該当作品なしという結果であった。

表彰式は12月8日午前10時から授与キャンパス學術メディアセンター常磐ホールで、入賞者および入賞学校関係者、審査員、高校生新聞社社員、赤井益久本学学長、高島佳代子本学若

厳正な審査の結果、優秀学校賞、および各部門にお

本育成会副会長、玉井浩二国学院大学院友会常務理事などが出席し行われた。また、昨年度同様に作品で披露した。

審査員

◎全体▽小川直之(本学文学部教授) ◎研究レポート部門▽新谷尚紀(本学文学部教授) ◇映像作品▽西角井正大(国立劇場おきな運営財団理事) ◎民話創作部門▽花部英雄(本学文学部教授) ▽佐藤美穂(本学客員教授)

研究レポート部門

〈団体〉

◎佳作▽「デメジンのカラクイ」(鹿児島県立薩南工業高等学校2年・地域研究

〈個人〉

◎佳作▽「大口通商店街の未来」(普世明日香(神奈川・横浜共立学園高等学校2年)▽「江戸時代に最も栄えた行徳塩」中村瑠里(東京・二松学園大学附属高等学校3年) ◎入選▽「伝説から伝わること」須藤周(青森・五所川原第一高等学校1年)▽「あおもりはん」福土ちひろ(青森・五所川原第一高等学校3年)▽「青森県の食文化」長谷川実来(青森・五所川原第一高等学校3年)▽「富山県のおもてなしの味」北辻香里(神奈川・横浜共立学園高等学校2年)

民話創作部門

〈団体〉

◎佳作▽「雁堤と人柱伝説」(静岡・不二聖心女子学院高等学校2年・ソマレレ)▽「尾なし竜」(岐阜県立岐阜総合学園高等学校3年・マルチメディア部) ◎入選▽「竜爪山」(静岡・静岡豊葉高等学校1年・「竜爪山」制作班)▽「古墳をつくる」(群馬・高崎市立高崎経済大学附属高等学校2年・「古墳をつくる」制作班)▽「妖怪伝説」群馬編」(群馬・高崎市立高崎経済大学附属高等学校2年・「妖怪伝説」制作班)▽「おじいちゃんの話」(静岡

〈個人〉

◎佳作▽「最上等の献上品 外伝桜月ノ残夢」鹿内美咲(青森・五所川原第一高等学校3年)▽「力もち万吉」藤田菜林(岐阜県立岐阜総合学園高等学校3年) ◎入選▽「仲直りの柿」本間美由紀(青森・五所川原第一高等学校3年)▽「りんちゃんのおうげん」田中彩乃(青森・五所川原第一高等学校2年)▽「タヌキの恩返し」高橋愛美(静岡・不二聖心女子学院高等学校2年)▽「桃太郎」權田華恋(群馬・高崎商科大学附属高等学校1年)▽「銀の亀」林瑠子(東京・トキワ松学園高等学校2年)

▽「大倉本家のフライドと誇り」藤本匠(奈良県立大和中央高等学校3年)

・不二聖心女学院高等学校・「おじいちゃんの話」制作班)▽「帯が平の大蛇」(岐阜県立益田清風高等学校2年・「帯が平の大蛇」制作班)

若木育成会

キャンパス見学会を開催

在学生の保護者の組織である国学院大学若木育成会では、昨年10月から11月にかけてキャンパス見学会を開催した。今年度は10月19日に渋谷キャンパス、11月16日にたまプラーザキャンパスで実施し、参加人数はそれぞれ668人、32人、参加延べ人数は700人（昨年度798人）、参加支部は38支部（同41支部）であった。

それぞれ668人、32人、参加延べ人数は700人（昨年度798人）、参加支部は38支部（同41支部）であった。渋谷キャンパスでは、例年と同様に自由見学方式での実施とし、参加者は各学科の模擬授業や、学生アドバイザーが案内する施設見学に参加していた。また万葉エコBeeproジエクトで採蜜された「万葉はちみつ」が販売され、早々に完売になるほどの人気となった。

就職ガイダンスでは内定者が語る親子のコミュニケーション」と題し、原田佳昌（キャリアサポート課長の司会の下、就職内定者2人から就職活動における親子の在り方について報告があり、家庭での就職サポートに関する体験談を、参加者

の、神宮が20年に一度の遷宮を迎え、神社や祭礼への関心が高まる中、各会場とも、毎年楽しみにしている地域住民、院友（本学卒業生）や本学受験生など本学と接点のある人以外の来場者も多く見受けられた。鑑賞後も展示を堪能できるように、図録や資料の一部をデザインした絵葉書やおりを会場に配布した。また、展示資料の背景をより深く理解する企画として、渋谷ではプロガー内覧会を、新潟と松本では関連したテーマの講演会を実施した。

松本では9月22日午後2時から展示会場4階本町ホールで、鈴木聡子本学研究開発推進機構助教授が講演「神社の年中行事」を行い、実際の祭りの写真や祭礼絵巻を基に、賀茂祭や祇園祭などの見所を細部まで紹介。講義を聞き「すぐにでも京都に行きたい」との感想が聞かれた。



キャンパスツアーで祭教室を見学

前期学生部長賞

3団体・8人が受賞

本学は、課外活動において素晴らしい成績を収め、本学の名を大いに高めた学生を表彰する学生部長賞（前期）を3団体と8人に贈ることを決定。昨年11月22日午後0時10分から、渋谷キャンパス3号館前で表彰式を行った。

佐藤長門学生部長・文学部教授のあいさつに続いて、受賞団体・受賞者の表彰。それぞれ壇上で佐藤学生部長から賞状と記念品の図書カードが授与された。なお、受賞団体・受賞者は以下のとおり。（敬称略）

▽クラブ・フットボール部
第27回 SEVEN ASS IDE大会（リーグ戦）第3位

佐藤学生部長（前列中央）と受賞者

3位▽アルティメット部
第24回全日本大学アルティメット選手権大会準優勝▽劇団夢夢Ⅱ創部40周年記念公演『大江戸狂騒曲〜狂ひ咲き東海道五十四次〜』

▽春田一馬（史3）
平成25年度東都大学野球連盟春季一部リーグベストナイン（二塁手）▽水野一世（健体3）
同（外野手）▽杉浦裕大（日文4）
同（投手）

13年プロ野球ドラフト会議東京ヤクルトスワローズ1位指名②第39回日米大学野球選手権大会日本代表表選出▽石川良平（健体4）
同日本代表表選出▽内野美咲（史3）
第61回全日本学生弓道選手権大会女子個人戦第8位▽齊藤翔一（史1）
平成25年度首都学生ソフトテニス選手権大会ダブルス優勝▽石川亮輔（法4）
同▽地崎亮祐（経3）
平成25年度全日本学生柔道体重別選手権大会90キログラム級優勝

各開催地「会場」（開催期間）と来場者数は、札幌「紀伊国屋書店札幌本店」（6月8日から同16日まで）829人。滝川「国学院大学北海道短期大学部」（6月17日から同23日まで）398人。新潟「新潟大学駅南キャンパス」ときめいと」（9月7日から同16日まで）498人。松本「松本市時計博物館」（9月21日から同29日まで）118人。東京「本学渋谷キャンパス博物館」（7月13日から同28日まで）3303人。総来場者数は6216人。

出雲大社が60年に一度の、神宮が20年に一度の遷宮を迎え、神社や祭礼への関心が高まる中、各会場とも、毎年楽しみにしている地域住民、院友（本学卒業生）や本学受験生など本学と接点のある人以外の来場者も多く見受けられた。鑑賞後も展示を堪能できるように、図録や資料の一部をデザインした絵葉書やおりを会場に配布した。また、展示資料の背景をより深く理解する企画として、渋谷ではプロガー内覧会を、新潟と松本では関連したテーマの講演会を実施した。

「国学院大学学びへの誘い」

各開催地で文化の発展に貢献

国学院大学では、所有する学術資産を活用した展示会の開催により、開催地域の文化的貢献を図ることを目的に、「国学院大学学びへの誘い」と題した展示会を平成17年度から毎年開催し、好評を博している。9年目を迎えた平成25年度は「祭礼絵巻にみる日本のこころ」をテーマに本学所蔵

の「賀茂祭草子」「年中行事絵巻」「祇園祭礼絵巻」などの貴重資料を、北海道の札幌市と滝川市、新潟市の長野・松本市、本学渋谷キャンパスの5か所で展示した。

各開催地「会場」（開催期間）と来場者数は、札幌「紀伊国屋書店札幌本店」（6月8日から同16日まで）829人。滝川「国学院大学北海道短期大学部」（6月17日から同23日まで）398人。新潟「新潟大学駅南キャンパス」ときめいと」（9月7日から同16日まで）498人。松本「松本市時計博物館」（9月21日から同29日まで）118人。東京「本学渋谷キャンパス博物館」（7月13日から同28日まで）3303人。総来場者数は6216人。

出雲大社が60年に一度の、神宮が20年に一度の遷宮を迎え、神社や祭礼への関心が高まる中、各会場とも、毎年楽しみにしている地域住民、院友（本学卒業生）や本学受験生など本学と接点のある人以外の来場者も多く見受けられた。鑑賞後も展示を堪能できるように、図録や資料の一部をデザインした絵葉書やおりを会場に配布した。また、展示資料の背景をより深く理解する企画として、渋谷ではプロガー内覧会を、新潟と松本では関連したテーマの講演会を実施した。

松本では9月22日午後2時から展示会場4階本町ホールで、鈴木聡子本学研究開発推進機構助教授が講演「神社の年中行事」を行い、実際の祭りの写真や祭礼絵巻を基に、賀茂祭や祇園祭などの見所を細部まで紹介。講義を聞き「すぐにでも京都に行きたい」との感想が聞かれた。

人間開発学部長賞

受賞8人を笑顔で祝福

人間開発学部の学部理念「頑張ることを応援する」に基づき、同学部の中で優れた実践的活動を行った学生（①優れた教育的実践活動を行った者②優れた地域貢献活動を行った者③課外活動において優れた実績をあげた者④その他選考委員会が認めた者）を表彰する人間開発学部長賞。今年度は8人が受賞し、昨年12月18日、たまプラーザキャンパスで表彰式が執り行われた。

新富康央学部長と記念撮影する受賞学生

集まり、受賞した8人の学生に祝福の拍手が贈られた。表彰式終了後、受賞学生を代表して三宅一輝君

（健体4）があいさつし、「受賞に恥じぬよう、充実した大学生活を送りたい」と今後の抱負を語った。表彰式に先立ち、午後0時30分からカフェラウンジ万葉の小径で学部学生会が開催された。受賞学生と同僚部教員が昼食をとりながら、キャンパスの設備の利用状況や課外活動などについて情報交換を行った。

今年度の受賞者は、芦川紘子さん（健体4）、三宅一輝君（健体4）、黒田真以さん（初教3）、増田紘也君（初教3）、神生麻理さん（健体3）、生田汐里さん（健体3）、宇津川晶子さん（初教2）、水野安伸君（健体2）の8人。

with 東北の今を知る

「陸奥金華山と女川の震災復興に学ぶスタディーツアー2013」に参加して

昨年12月14・15日の2日間、研究開発推進機構学術資料センターが主催する「陸奥金華山と女川の震災復興に学ぶスタディーツアー2013」が行われた。このツアーは、「研究者・院友たちとともに、宮城県女川町周辺の被災・復興状況を見て、聞いて、歩く。地域に学び、東北と日本の過去・現在・未来を考える」を目的に企画された。教員・大学院生・学部生、総勢26人が参加した。今回私は実際に現地に行き、見聞きしなければわからない東北の現状を知りたいと思い参加を決めた。

当日、太平洋に面する宮城県女川町では強い寒波の影響で初雪を観測。例年では12月に雪が降ることは珍しいと現地の人が話すくらいの寒さだった。

現地に到着した我々は、まず女川町地域医療センターを訪問。建物の外で女川町の現状について話を伺った。話の最中も周囲のいたる所から復旧作業をする重機の音が響く。震災から3年が経とうとしている今も、沿岸部ではまだ復旧作業が続いていることに気がつく。また、移動中には骨組みだけの建物や、普通では考えられない角度に階段がひしゃげてしまった建物などを目にし、津波の威力がどれほどのものだったかを実感した。

夜には宿で、地元で語り部として活動する2人の男性の話を聞いたが、臨場感や雰囲気などがメディアを介するときとは違っていた。また震災当初からの出来事を直接聞くことは、心をつかまれるような苦しい思いであり、時折耳をふさぎたくなるような内容もあったが、実際の現状を知るためにも背けてはいけなと感じた。

地震や津波の被害は、二次、三次と連鎖し今も続いている。女川町では地盤沈下により、現在でも大潮の時は海水が迫ってくるという。そのため6メートルから18メートルの地盤のかさ上げ工事を行わなければならない。

私はこのツアーを通じ被災地の現状を知り、同時に自分自身の震災や東北の現状への知識の浅さを痛感した。メディアでは震災関連のニュースは少なくなり、復興も進んできているのかと想像していた。被災した地域でも内陸の市街地ではほかの場所と変わらない町並みだった。一方沿岸部では現在でも津波の爪あとがくっきりと残り、仮設住宅が立ち並ぶ。直接足を運び、目を向けなければ気がつかないものが女川にはあった。これから東北の現状を追い、少しでも貢献できるような行動を続けていきたい。



高台から女川の町を望む

土橋菜央（法1）

神奈川産学連携チャレンジプログラム

経済学部金子ゼミが優秀賞に

パシフィコ横浜会議センターで開催された授賞式には、チームの指導にあたった金子良太経済学部教授と受賞学生の渡邊藍子さん（経営3）、秋葉雄太君（経3）、杉山拓介君（経3）、宮下優佳さん（経営3）が出席し、受賞の喜びを分かち合った。

同プログラムは、一般社団法人神奈川経済同友会が主催し、同社団法人の会員企業から提示されたテーマに対して、神奈川県にある大学の学生チームが研究レポートの提出とプレゼンテーションを行う産学連携人材育成プログラム。10回目となる今回は、18大学から245チームが参加し、その中から最優秀賞が16チーム、優秀賞が44チーム選ばれた。



受賞学生（右から渡邊さん、宮下さん、秋葉君、杉山君）

本学経済学部、金子良太ゼミ所属の学生チームが神奈川産学連携チャレンジプログラムで優秀賞を受賞した。昨年12月19日、横浜市にある

・法・神道文化学部生は学生生活課。人間開発学部生はたまプラーザ事務課へ各事務時間内に出席すること。応募資格は、学部学生で勉学意欲があり、経済的事由により修学困難で、学業・人物ともに優秀な者。支給額は30万円（2分割給費）。詳細は要項等で確認のよう。

国学院大学生活協同組合

今年度卒業生への出資金返還

生協加入時に預かった出資金は、3/3（月）の成績発表時から返還手続きを開始。返還には「出資証書」、「組合員証」、「印鑑」が必要。詳細は生協窓口まで。

その他のイベント等は、本学ホームページでご確認ください。

開幕を1軍で迎え、リリーフ登板するも得点を許す試合が多く、1軍に定着できなかった。成績は17試合登板、1勝3敗・3 H P、防御率は10・61だった。

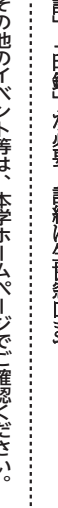
◆東北楽天・ゴルデンイーグルス・嶋基宏捕手（平19卒・115期史）

開幕から攻守でチームを牽引し、球団初のリーグ優勝・日本一に大きく貢献した。

場13打数1安打1打点。日本シリーズでは、7試合出場17打数8安打1打点。

◆読売ジャイアンツ・高木京介投手（平24卒・120期法）

開幕を1軍で迎え、左の中継ぎとして期待されたが、失点をするケースが目立った。シーズン成績は、46試合に登板し、3勝・9 H P、防御率は4・34だった。クライマックスシリーズ



体育連合会50周年

本学の体育部会を取りまとめる「体育連合会」が昭和38年の創立から50年の節目を迎えた。昨年11月30日には、学生、卒業生、指導者、教職員が出席して記念行事が渋谷キャンパスで行われ、歴史の重みを再認識するとともに今後の活躍への決意を新たにした。

記念行事は、神殿での奉告祭、記念式典、祝賀会の3部構成。午後1時から、神殿で執り行われた創立50周年記念奉告祭には、体育連合会会長の植田眞己君（軟式野球部・中文4）や、体育連合会顧問の紺井博則（経済学部教授）、体育連合会監督の坂入益ノ部総監督（昭43卒・76期経）をはじめ学生、卒業生、指導者、教職員が参列した。

会場を百周年記念館記念講堂に移し、午後2時30分からは、記念式典が行われた。体育連合会関係者故郷に黙祷を捧げた後、開会の辞、国歌斉唱と進み、式辞では体育連合会会長の植田君が「時代の流れに乗り、時に逆らってきた体育連合会の50年だと実感した。伝統と未来を背に考えてもらいたい」と述べた。

続いて、赤井益久学長が祝辞を述べ、永年の先輩、指導者、指導教員の努力への謝意と、今後の学生たちの活躍への期待を表した。さらに、紺井体育連合会顧問、坂入監督会会

歴史を胸に新しい時代を



式辞を述べる植田君

長、篠直嗣親友会（体育連合会幹事会OB会）会長（昭54卒・87期神）が祝辞やあいさつを述べ、最後は、出席者全員で万歳三唱をして記念式典は終了した。

部会紹介や親友会の総会などを挟み、午後6時からは祝賀会が若木タワー有栖川宮記念ホールで行われた。会には、佐柳正三常務理事・佐藤長門学生部長のあいさつの後、城所俊哉学生事務部長兼学生生活課長の乾杯の発声で懇親に移った。最後は、全員で校歌や応援歌などを斉唱、全学応援団のエルを受けてお開きとなった。

箱根駅伝

主将・寺田君が
意地の力走

力走及ばず総合17位

第90回東京箱根間往復大学駅伝競走（関東学生陸上競技連盟主催）が、1月2日（往路：108km）・3日（復路：109.9km）に、両日とも午前8時開始）、大手町・読売新聞新社屋前から箱根・芦ノ湖駐車場入口までの往復コースで、23大学によって行われた。前回大会でシード権を逃し、予選会5位で

4年連続8回目の出場権を手にした国学院大学陸上競技部（大森俊夫部長・前田康弘監督）の総合成績は、11時間20分44秒で17位（往路：5時間42分36秒・18位、復路：5時間38分8秒・15位）。目標としていた5位に届かず、2年続けてシード権を逃した。次回大会は予選会からの挑戦となる。

総合成績		
順位	大学名	記録
1	東洋大学	10:52:51
2	駒沢大学	10:57:25
3	日本体育大学	11:03:51
4	早稲田大学	11:04:17
5	青山学院大学	11:08:53
6	明治大学	11:10:09
7	日本大学	11:12:52
8	帝京大学	11:13:03
9	拓殖大学	11:13:06
10	大東文化大学	11:14:43
11	法政大学	11:15:33
12	中央学院大学	11:15:40
13	東海大学	11:17:52
14	東京農業大学	11:18:02
15	中央大学	11:18:43
16	順天堂大学	11:19:03
17	国学院大学	11:20:44
18	神奈川大学	11:23:47
19	城西大学	11:25:42
20	上武大学	11:25:56
21	専修大学	11:28:39
22	国士舘大学	11:38:35
記録なし	山梨学院大学	—

出場選手一覧

区間	氏名	学年 学科	区間 順位
往路	1 柿沼 昂太	経営4	18
	2 寺田 夏生	健体4	7
	3 沖守 怜	健体3	21
	4 牛山 雄平	経ネ4	17
	5 大下 稔樹	経ネ3	16
復路	6 湯川 智史	経営3	9
	7 廣川 倅暉	神文2	6
	8 蜂須賀 源	健体1	13
	9 吾妻 佑起	健体2	20
	10 塚本 一政	法 3	9

今年の大会は、序盤から各大学の有力選手が引っ張る高速レースとなった。その中で本学は、1区柿沼君が大崩れすることなく、2区につなぐ。主将の寺田君は、区間7

位の快走で順位を4つ上げ14位につけた。しかしその後は、寺田君からの流れに乗れず、徐々に順位を下げ、往路18位で芦ノ湖のゴールテープを切った。



2区寺田君(保土ヶ谷)



6区湯川君
(箱根湯本駅前)

復路
6・7区で追い上げるも
本学初襷途切れる

翌日の復路は、本学を含め11位以下の13校（オープン参加含む）が一斉スタートとな

り、高速レースの影響が垣間見られる。6区湯川君は区間9位、7区廣川君は区間6位の好走で、上位との差を縮め、反撃の流れを作るも後が続き、鶴見中継所では先頭走者

通過から20分後の繰上げスタートに、9区吾妻君が7秒届かず、本学にとって初めて襷が途切れてしまった。それでも、新たな襷を肩にかけた10区塚本君が区間9位と意地の走りで大手町を駆け抜けた。総合17位で、前回大会から3つ順位を下げた本学だが、総合記録では13分以上短縮さ



7区廣川君(二宮駅前)

悔しさにじむ監督・選手
大会終了後、ゴール付近の選手たちは、往路から後続を突き放した東洋大学が10時間52分51秒の歴代2位の成績で2年ぶり4度目の総合優勝。2位には11時間を切った駒沢大学、連覇を逃した日本体育大学は3位だった。

同部の3年生以下の選手たちは、翌1月4日朝から練習を再開。既に次の箱根駅伝でのリベンジを目指しスタートを切っている。

第27回

国学院大学松尾三郎杯争奪
全国選抜高等学校柔道大会

全国から強豪校が集い熱戦



第27回国学院大学松尾三郎杯争奪全国選抜高等学校柔道大会（国学院大学柔道部主催、毎日新聞社後援）が、昨年12月23日にたまプラーザキャンパス体育館で開催され、北は青森から南は長崎まで62校が参加した。

本大会は、本学柔道部出身者が奉職した各高等学校の柔道部による交歓試合を前身とし、その後、松尾三郎本学元理事長のスポーツ振興、とりわけ柔道振興に尽力した功績を顕彰するとともに、本学および本学柔道部が武道発展に貢献することを目的に毎年開催されている。

出場校にとっては、高校総体後、代替わりをした新チームが初めて挑む全国規模の新人戦で、各校の実力をはかる機会となっている。

大会は、団体戦トーナメント方式で進められ、決勝戦は、修徳高等学校（東京）と白鷗大学足利高等学校（栃木）の対戦となった。修徳高校は1-0で白鷗大足利高校を降し、6年ぶり2度目の優勝を果たした。第3位は、崇徳高等学校（広島）と国士舘高等学校（東京）であった。優秀選手には小川雄勢（修徳）坂口真人（同）太田彪雅（白鷗大足利）釘丸将太（国士舘）香川大吾（崇徳）の各選手が選出された。



柔道グラندスラム東京2013

昨年11月29日から12月1日まで、柔道の国際大会「グラ

川上選手は3回戦敗退

スラム東京2013」（全日本柔道連盟主催）が東京体育館（渋谷区）で開催された。同大会は国内で行われる唯一の国際初戦の2回戦は、フィリピン

の選手を相手に開始48秒で一本勝ち。3回戦（写真）は、韓国の選手に有効のポイントに先制奪いリードするも、出足が止まったところを狙われ、技ありのポイントを取られ逆転を許す苦しい展開に。最後まで攻め続け、あやや一本・逆転勝利かという場面を作ったが、ポイントを奪うことができず、優勢負け。3大会連続のメダル獲得はならなかった。